

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2009 年 9 週 (2 月 4 週 2/23 ~ 3/1)

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail : eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先 : 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

インフルエンザ (警報発令中)
集団かぜの発生について (第 34 ~ 35 報)
麻しん
病原体検出情報
定点医療機関コメント
感染性胃腸炎、インフルエンザ、溶連菌感染症等
全数把握感染症発生状況 ()内は件数。
結核(27)、腸管出血性大腸菌感染症(3)、アメーバ赤痢(2)、急性脳炎(1)、クロイツフェルト・ヤコブ病(1)、後天性免疫不全症候群(3)、風しん(1)、麻しん(1)

名古屋市感染症情報 (2 月後半)

WHO 疫学週報抄訳

2009 年 2 月 13 日 (84 巻 7 号)

エボラ出血熱ウイルスレストン型; 豚と人の感染、フィリピン

コレラ集団発生; ジンバブエ

国際保健規則 4 疾患; 診断基準

2009 年 2 月 20 日 (84 巻 8 号)

麻疹排除の進捗; 05-08 年欧州地域

定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎; 津島、江南保健所警報レベル

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf> をご覧ください。

トピックス

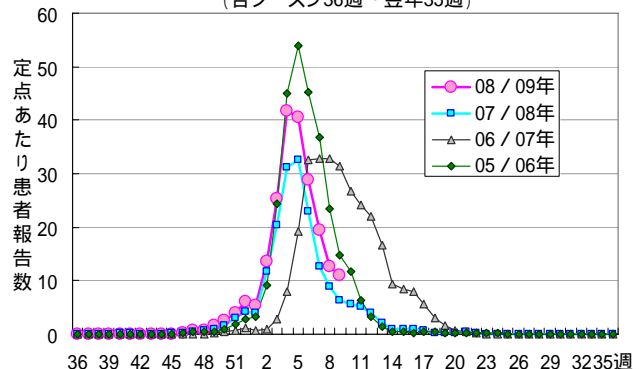
インフルエンザ (警報発令中)

愛知県全体の定点あたり報告数は 11.0 人、前週比 0.9 倍 (2,447 人 2,151 人) です。

【参考ページ】

- 1) “インフルエンザ警報”を発令します!!
(健康対策課・1 月 22 日発表)
<http://www.pref.aichi.jp/0000021925.html>
- 2) 2008/09 シーズンインフルエンザ発生状況(保健所別・週別)
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/infllu_map.html
- 3) 2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離状況
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

図1 シーズン別インフルエンザ定点あたり患者報告数
(各シーズン36週～翌年35週)



集団かぜの発生について (健康対策課発表)

	発表	集団発生施設の管轄保健所	URL
第 34 報	3 月 2 日	春日井、衣浦東部	http://www.pref.aichi.jp/0000023087.html
第 35 報	3 月 3 日	江南	http://www.pref.aichi.jp/0000023119.html

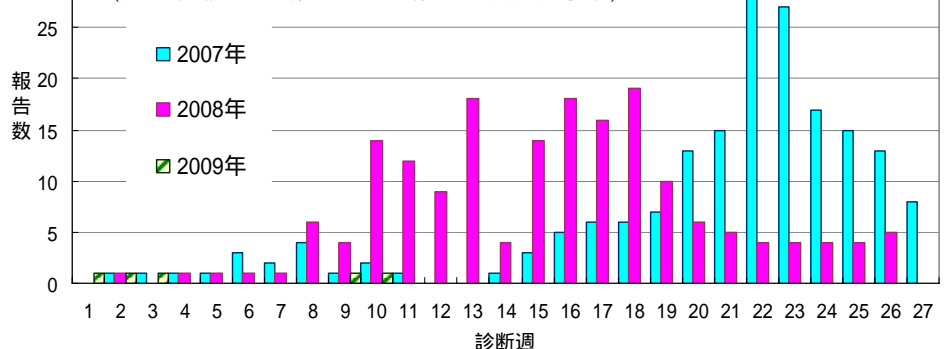
麻しん

2009 年患者報告総数は、全国で 132 人、愛知県は 5 人です (3 月 5 日現在)。

【参考ページ】

「麻しん患者調査事業における麻しん患者発生報告状況」
http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl_4.html

図2 麻しん患者発生状況
(愛知県・診断週別、2007年は麻しん全数把握事業)



平成 20 年 7 月以降の発症者、インフルエンザは 2008 / 2009 シーズンの検査結果です。

	感染性 胃腸炎	手足 口病	ヘル パン ギー ナ	咽 頭 結 膜 熱	流 行 性 角 結 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	脳 炎 ・ 脳 症	イン フル エン ザ
患者数	271	58	55	15	13	36	14	177
PV-1	1							
PV-3	3							
CV-A2			10					
CV-A4		2	12			1	1	
CV-A6			3					
CV-A10			5					
CV-A16		39	3				1	
EV-71		1						
CV-A9				1				
CV-B1	1		1			3	1	
CV-B3	1					1		
CV-B4			2			1		
CV-B5	3					2		
E-5						1		
E-6	1							
E-11	1		1				1	
E-30	1	2		1		10		
HPeV-1	4							
HPeV-3		1					1	
FluAH1								96
FluAH3								36
FluB								2
MuV						1		
NV-G	71							
SV	3							
Ad-1	1							
Ad-2	2		1					
Ad-3	9			8			1	
Ad-4				2				
Ad-5	2					1		
Ad-6	2							
Ad-31	1							
Ad-41	7							
検査中	50	3	2	0	6	2	3	31
陰性	113	10	15	3	7	13	5	12

略: ウイルス名(他の略名)

Ad : アデノウイルス	FluAH1 : A ソ連型インフルエンザウイルス	MuV : ムンプスウイルス
CV : コクサッキーウイルス	FluAH3 : A 香港型インフルエンザウイルス	NV : ノロウイルス
E : エコーウイルス	FluB : B 型インフルエンザウイルス	PV : ポリオウイルス
EV-71 : エンテロウイルス 71	HPeV : ヒトパレコウイルス	SV : サボウイルス

関連ページ

1) 「疾患別ウイルス検出情報」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/prompt.html>

2) 「2008/09 シーズンインフルエンザウイルス分離状況」

http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/infbunri08_09.html

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

溶連菌感染症、アデノウイルス感染症が少しありました。

ヘルパンギーナ4例あり

【一宮市 あさのこどもクリニック】

感染性胃腸炎やや増加

【一宮市 後藤小児科医院】

ロタウイルス 10か月男2人、1歳男2人、4歳男3人、2歳女3人

マイコプラズマ 7歳女2人

【一宮市 ささい小児科】

ピブリオ・フルビアリス/ファーマニシイ感染症 74歳1名

【一宮市 城後小児科】

インフルエンザ30名（A型26名、B型4名）

【一宮市 一宮市立市民病院】

B型インフルエンザの流行がはじまりました。腹痛、下痢、高熱を主訴とする胃腸炎が流行しています。

細菌では、O1、カンピロバクターが多いようです。

【犬山市 武内医院】

インフルエンザ13名（A12名、B1名）

溶連菌感染症、感染性胃腸炎の流行が続いています。

【江南市 みやぐちこどもクリニック】

ロタウイルス胃腸炎3例。

手足口病散発。

インフルエンザA型52例、B型1例。（うち、36例はワクチン接種者。）

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

ロタウイルス 4か月男、1歳男。

マイコプラズマ感染症、9歳 男。

病原性大腸菌（EPEC O1）40歳 男。

カンピロバクター33歳 女。

インフルエンザがピークを超えた可能性。

B型1名、A型11名。

【春日町 丹羽医院】

インフルエンザ A型10名

【北名古屋市 田中クリニック】

インフルエンザA型7名、インフルエンザB型0名。

麻疹15歳女1例

【津島市 医療法人参育会加藤医院】

11歳男 B。

【弥富市 医療法人すずきこどもクリニック】

尾張東部地区

ロタウイルス感染を含めた感染性胃腸炎が多い。流行性耳下腺炎、アデノウイルス感染症も多い。インフルエンザは殆んどなくなりました（A型5名）。

【瀬戸市 津田こどもクリニック】

インフルエンザ16名（全てA型）。

その他、溶連菌感染症、水痘、突発疹等。

【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】

2歳男、3歳女、5歳女、11歳男、30歳女、39歳女、64歳男 7名A型インフルエンザ。

【豊明市 豊明団地診療所】

インフルエンザは減少しています。

感染性胃腸炎は続いています。

【春日井市 春日井市民病院】

インフルエンザ減少。

RS感染症少々。

感染性胃腸炎続発中。

【春日井市 朝宮こどもクリニック】

当院近辺ではインフルエンザの流行が落ち着いた頃より胃腸炎が増えてきました。

【春日井市 かちがわこどもクリニック】

インフルエンザ104人（内インフルエンザB9人）。

【春日井市 医療法人聡彩会片山こどもクリニック】

インフルエンザ激減、ロタウイルス胃腸炎、溶連菌感染症、水痘が目立ちます。

【小牧市 志水こどもクリニック】

インフルエンザA型2名。

溶連菌感染症があいかわらず多く、感染性胃腸炎も多いです。

【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】

インフルエンザ減少傾向。

ロタを中心とする胃腸炎増加。

【小牧市 小牧市民病院】

インフルエンザB7名、インフルエンザA4名

【半田市 医療法人林医院】

A型12名、B型6名

【半田市 医療法人敬おっかわこどもクリニック】

インフルエンザA型6名、B型16名

【南知多町 医療法人大岩医院】

ロタウイルス（+）11か月 男

ロタウイルス（+）3歳 女

インフルエンザA型 2歳 男

インフルエンザA型 8歳 女

インフルエンザB型 7歳 男

インフルエンザB型 9歳 男

インフルエンザB型 6歳 女 2名

【東海市 東海市民病院】

インフルエンザA型は減ってきましたが、B型は増えてきたようです。A型5名 B型15名。

ロタウイルス陽性 1名（1歳）

A群溶連菌感染症が少しでてきたようです。

【東海市 もしもしこどもクリニック】

インフルエンザB型6名

あとはすべてA型です。

5歳男は今シーズン インフルエンザA型に2回罹患。

ロタウイルス感染症多いです。

12歳男も迅速テストでロタウイルス（+）でした。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

インフルエンザA型 5名
 StrepA(+) 7名
 ロタウイルス腸炎 4名
 【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
 インフルエンザA型 12名
 インフルエンザB型 8名
 【豊田市 田中小児科医院】
 インフルエンザA型 8名
 インフルエンザB型 6名
 インフルエンザA型・B型混合 1名
 ロタウイルス 5名
 【豊田市 すくすくこどもクリニック】
 インフルエンザA型 5名
 インフルエンザB型 1名
 【豊田市 足助病院】
 インフルエンザ16名は、すべてA型
 【岡崎市 医療法人深田小児科】
 病原大腸菌O1(+) 1歳男
 インフルエンザ20例中2例はB型でした。
 【岡崎市 花田こどもクリニック】
 インフルエンザ感染症減少傾向 B型50%、
 ワクチン接種率63%。
 水痘散見されます。
 【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
 インフルエンザA型 10名
 インフルエンザB型 1名
 5歳女 病原性大腸菌O25(+)VT(-)
 7歳男 病原性大腸菌O18(+)VT(-)
 【岡崎市 にいのみ小児科】

9歳女 病原大腸菌O1
 インフルエンザA型 11名
 インフルエンザB型 3名
 【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】
 すべてA型
 【岡崎市 医療法人志貴こどもクリニック】
 インフルエンザA型9名、B型1名(6歳女)
 予防接種済6名、予防接種未4名
 【岡崎市 栗屋医院】
 インフルエンザA型 3名
 【岡崎市 医療法人永坂内科医院】
 ロタウイルス、胃腸炎目立ちます。
 インフルエンザ減っていますが、引き続きい
 ます(たまにBもあり)。
 【碧南市 永井小児クリニック】
 インフルエンザはA9名、B4名。
 ロタ腸炎3名(0歳2名、1歳1名)。
 【刈谷市 田和小児科医院】
 インフルエンザA 14名
 インフルエンザB 7名
 アデノウイルス 2名
 【知立市 宮谷クリニック】
 感染性胃腸炎がまだ多いです。
 【三好町 三好町民病院】
 感染性胃腸炎は依然目立ちます。
 インフルエンザは全てA型(16名)で先週よ
 りまた、増加しました。
 【西尾市 山岸クリニック】
 アデノウイルス感染症 3歳女、2歳女
 病原性大腸菌 4歳男(O1VT-)
 8歳男(O1VT-)
 11歳男(O1VT-)
 【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

ロタウイルス性腸炎 6名
 【豊橋市 マミーローズクリニック】
 インフルエンザA型はだいぶ減ってきました。
 【豊橋市 医療法人こどもの国大谷小児科】
 再び嘔吐・下痢の患者さんが増えています。
 【豊橋市 あずまだこどもクリニック】
 インフルエンザは再び増加しています。先週
 比45%増 B型が84%を占めています。
 【豊橋市 医療法人野村小児科】
 インフルエンザA型 7名
 【豊橋市 おだかの医院】

インフルエンザはA型25名、B型30名、A
 B同時陽性1名の計56名でした(1歳から59歳)。
 【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】
 A25件 B4件
 【豊川市 豊川市民病院】
E. coli (O1)4歳女
E. coli (O6)3歳男
 1日一宮町を中心にインフルエンザB型でて
 きました。
 ロタウイルス胃腸炎の乳幼児は、重症(入院)
 例が目立ちました。
 【豊川市 ささき小児科】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2009年3月4日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki/jun080512.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2009年9週報告数			2009年累計(1～9週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	16	4	2	126	30	20
豊田市	3		1	15	5	2
豊橋市				8	1	
岡崎市				7	2	1
一宮	1		1	25	8	5
瀬戸				17	6	2
半田						
春日井				14	6	3
豊川				10	4	3
津島				8	1	2
西尾				6	3	
江南	4	1		19	5	5
新城	1			4	1	
知多				7	1	3
師勝	1			9	4	
衣浦東部	1	1		17	8	2
合計	27	6	4	292	85	48

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	豊橋市	5歳	女	- / -	2 / 23	2 / 25	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者
2	豊橋市	32歳	女	- / -	2 / 23	2 / 25	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者
3	豊橋市	57歳	女	- / -	2 / 23	2 / 25	O157、VT1(+)VT2(+) 無症状病原体保有者

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	48 歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	フィリピン
2	津 島	51 歳	男	腸管アメーバ症	不明	国内

急性脳炎（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病原体	推定感染地域
1	豊田市	64 歳	女	単純ヘルペスウイルス	国内

クロイツフェルト・ヤコブ病（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型
1	豊田市	62 歳	男	古典型

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	62 歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
2	名古屋市	26 歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	名古屋市	46 歳	男	A I D S	性的接触	国内

風しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染経路
1	豊田市	29 歳	男	有	国内

麻疹（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染経路
1	津 島	15 歳	女	有	国内

名古屋市感染症情報（2月後半）

平成21年3月5日

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

「冴え返る」歳時記の3月の季語です。寒さがぶり返すこと。前回同様の寒さ見舞いの挨拶になりましたが、同じ歳時記に「一本の沈丁の香の館かな（虚子）」があり、校庭や我が家の庭の隅で沈丁花が匂うようになり、確実に季節は移って、学期末が近づいています。いつも貴重な情報を有難うございます。2月後半のまとめをお送りします。

名鉄病院福田先生からインフルエンザ（A型）が多いが減少傾向に転じており、ピークは過ぎた印象で、一方、ロタウイルス感染症は急増、アデノウイルス感染症がこの時期としては多い印象あり、RSウイルス感染症は非常に少なくなり、入院ではロタウイルス感染症の重症例が多くなり、次いでインフルエンザの重症例、マイコプラズマ肺炎・気管支炎の順で目立つ、城北病院渡辺先生からは熱発患者がめっきり減少、インフルエンザや急性胃腸炎も減少、細菌感染症もあまり見られず、RSVもほとんどなし、第二日赤岩佐先生からは外来患者で目立つ傾向はなくインフルエンザはほとんどいなくなった、三菱病院入山先生からはロタウイルス腸炎を含む感染性胃腸炎が7名と目立ち、2名入院（ロタウイルス腸炎1名）咽頭アデノウイルス感染症2名（入院2名）、インフルエンザ（いずれもB型）2名（気管支肺炎合併で1名入院）水痘1名、気管支炎～気管支肺炎入院2名、中京病院柴田先生からはインフルエンザはピークを越えロタウイルス腸炎が開始した（要入院目立つ）、労災病院山田先生からは外来ではマクロライド耐性異型肺炎が多く、溶連菌感染症、水痘、ムンプス、感染後喘息発作が目立ち、入院でもマクロライド耐性異型肺炎や感染併発した喘息発作が多く、ロタウイルス感染症、RS細気管支炎が目立つ、大同病院水野先生からはインフルエンザAは減少、Bが増加（インフルエンザの入院は熱性痙攣などを合併した場合を除き原則としてせず、外来で頑張ってもらう）。RS感染症が続きインフルエンザ合併あり、ムンプス、水痘が増加、入院で熱性痙攣が多く半分はインフルエンザ、残りはロタ、RS、突発性発疹症。溶連菌感染が多く、急性糸球体腎炎の入院が目立ち、心内膜炎の入院あり、アレルギー性紫斑病の入院も続いている、とのお手紙でした。有難うございました。

2009 年 2 月 13 日（84 巻 7 号）<http://www.who.int/wer/2009/wer8407/en/index.html>

エボラウイルス・レストン型（ERV）。豚と人の感染。フィリピン。

（注：高い致死率と強い感染力、治療法もワクチンもないことから 1 類感染症に指定されているアフリカ土着のエボラ出血熱ウイルスにはこれまでの発生地区の地名でスーダン型、ザイール型と呼ばれる型が知られている。それとは別にフィリピンから米国に輸入されたサルに大量死が発生、その研究所の場所の名前から分離ウイルスがレストン型エボラウイルスと命名。このサル取扱い者に抗体陽性者がいたが、無症状であり、人に病原性のないエボラウイルスとされていた）

09 年 1 月 23 日フィリピン保健省は病死した豚の接触者 1 名が ERV・IgG 抗体陽性、1 月 30 日にさらに 4 名が抗体陽性であったと発表した。マニラ近郊居住者。5 名全員、健康で過去 12 カ月間無症状、5 名とも病気の豚と直接接点あり。この 5 名との接触者を調査中で、病死した豚の農場 2 ヲ所が閉鎖され、豚と豚肉製品移動中止。WHO、フィリピン当局が監視中。

コレラ集団発生。ジンバブエ。

歴史上最悪の流行がコントロール出来ない状況。08 年 8 月以降 09 年 1 月 29 日時点で 60,401 名（死亡 3,161 名）。さらに罹患者は増加し周辺諸国に広がる様相。緊急策として草の根レベルの教育・社会活動、経口輸液を含む地域レベルの適切な治療とスタッフ動員、国境なき医師団など NGO 参加、WHO など国際機関参画。対応として保健省は WHO 支援の下に首都ハラレにセンター設置、40 を超える国内外専門家チームを動員、オーストラリアのバーネット研、ロンドン大学熱帯医学研究所、バングラデシュ国立下痢研、米国 CDC が支援中で薬剤、器材などの支援も国際機関が実施中。

国際保健規則（International Health Regulations、IHR2005。注：国際感染症として WHO に届出義務あり）。届出 4 疾患の基準（case definition）

（1）新型インフルエンザ：PCR、ウイルス分離、ペア血清による抗体上昇で A 型パンデミックウイルス感染が確認された例。

（2）野生株ウイルスによるポリオ：ポリオ疑いの急性弛緩性麻痺例でポリオ野生株が便材料から分離同定された例。

（3）SARS：a . 臨床診断（発熱 + 下気道症状 + X 線像 + 他の疾患の除外）。b . 検査室確認検査：SARS 患者ないし SARS コロナウイルス取扱い者で ウイルス RNA 検出。 血清抗体検査：ELISA または蛍光抗体法で抗体上昇確認；

http://www.who.int/csr/resources/publications/WHO_CDS_CSR_ARO_2004_1/en/index.html。

（4）天然痘（痘瘡）：38.3 以上の突然の発熱、全身倦怠、頭痛と腰痛を伴う疲労感 + 2 ~ 3 日後、顔面と前腕から躯幹、下肢に広がる発疹：紅斑、丘疹 水泡、膿泡（臍あり） かさぶた。発疹はこの順に一連の進行、水痘のように混在しない。

麻疹排除の進捗。WHO 欧州地域。05～08 年。

欧州地域の麻疹風疹排除目標年は 2010 年。戦略計画は麻疹ワクチン 2 回以上 (MCV 1 と MCV 2) と風疹ワクチン 1 回以上を定期接種と定期外補充接種 supplementary immunization activities (SIAs) で実施。その結果 07 年、08 年麻疹患者数は人口 100 万当り 10 未満に減少、12～23 ヶ月児の麻疹初回接種率は 93～94%に達している。問題は () 西欧では接種率が完璧ではないので輸入例に続く国内流行がある。() 東欧では 08 年の SIA が頓挫している。

(1) 欧州における予防接種活動： 定期接種：08 年までに域内 53 カ国全部が麻疹ワクチン 2 回定期接種実施、51 カ国(96%)が MMR 3 混。全体では MCV 1 推定接種率は 00～04 年に 90～91%であったのが 05～07 年に 93～94%に増加(00～08 年の麻疹患者数と MCV 1 接種率のグラフあり)、しかし 07 年に目標の MCV 1 接種率 95%に達しているのは 36 カ国に止まっている(05～08 年の欧州全域の麻疹患者数、予防接種とサーベイランス達成目標 = Milestone と達成度の一覧表あり)。 SIA：05～08 年、東欧 8 カ国で 2700 万名が SIA で接種を受けた。カザフスタン、トルコ、ロシア、アゼルバイジャンなど 9 カ国における SIA 計画と実施状況(一覧表あり)では接種率の国による差 (50.3%～100.6%) が大きく、M 単独や MR 2 混の国が多い。

(2) サーベイランス：53 カ国全てに届出制度あり。臨床診断例数は毎年 WHO に報告。39 カ国 (74%)は毎月ガイドラインにそった臨床診断例数を報告。地域検査室網 (08 年には 48 検査室参加) がサーベイランスを支援、18,721 検体中 3,549 検体陽性。分離ウイルス遺伝子型は D 4 型が 40%を超えていた。

(3) 麻疹患者発生状況：欧州地域の麻疹患者報告数は 08 年には 7,814 例であった(表、グラフあり)。3,575(45.8%)例は検査で確定。08 年報告の 7,622 例が年齢やワクチン接種歴が分っていて 6,281 (82.2%) 例がワクチン未接種者、2,899 (38.9%) 例が 15 歳以上であった。05～08 年、麻疹集団発生は 120 事例あり、250 例を超えたのが 17 事例、28 カ国、目立つのは 05～07 年のウクライナ 46,121 例、ルーマニア 85,420 例、グルジア 8,391 例などで 05～06 年東欧諸国の発生が発端となっている(一覧表あり)。

2009年9週(2009年2月23日～2009年3月1日)

[illegible]

愛知県感染症情報

2009年9週(2009年2月23日～2009年3月1日)

愛知県衛生研究所

年齢階層 (名古屋市を除く)	RS ウイルス 感染症	インフル エンザ (鳥インフルエンザ及び 新型インフル エンザ等感染症を除く。)	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	細 菌 性 髄 膜 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	マイ コ プラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く。)
計	8	1,748	28	240	1,168	247	9	4	85	2	12	101	0	3	0	0	0	0
～6ヶ月	2	11			13	7			5	1								
～12ヶ月	1	25		1	63	11			41									
0歳																		
1歳	5	85	8	6	195	33	1	1	36	1	4	1						
2歳		83	6	6	133	45	5		3		2	7						
3歳		105	2	21	109	37	2	1			4	12		1				
4歳		142	5	51	121	53					2	17						
5歳		172	4	41	100	34	1					20						
6歳		157	1	47	91	10						14						
7歳		136		20	53	3						13						
8歳		125		12	53	5						7						
9歳		118		11	38	1						2						
5歳～9歳																		
10歳～14歳		258	1	15	84	7		2				6		1				
15歳～19歳		44		1	10													
20歳～			1	8	105	1						2						
20歳～29歳		77																
30歳～39歳		114												1				
40歳～49歳		48																
50歳～59歳		27																
60歳～69歳		7																
70歳～																		
70歳～79歳		9																
80歳以上		5																

*鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く